3-3 インターネット上における補完代替療法情報の事例研究

○中村　直行
東京大学大学院　学際情報学府

【目的】インターネット上に存在するおもに健康食品会社を発信源とする「癌の代替療法」と呼称される分野の情報をサーベイし、その情報が信頼できるかどうかをどうやって導き出したらよいのかを検討したうえで改善案の提示を試みる。

【方法】今回はインターネットの検索エンジンにより癌の代替療法を対象に調査を行ない、信頼できるかどうかとする根拠を確定させるためにはどのようなデータを集積したらよいのかという視点で事例を分析した。

【結果】恰も事実であるかのように表現しながら実際はその事実を立証できない矛盾した複数の事例を確認した。すなわち、学会で発表され好評を得たとか、臨床例や体験談も数多く報告されているとする表現を見ることができるが、同時に報告者の調べた限りにおいてはいまのわが国のインターネットやヒアリングでは検証できないという問題点がある情報源も複数存在することが解かった。その結果、改善案として、もし情報提供者がその内容にお墨付きなどの信頼性を付与させたいのであれば、あるいは情報を入手する側が提供される情報の信頼性を判断する基準のアシストを必要とするならば、何という学会で、それが何時何処で開催され、誰が、何という演目で発表し、何を根拠に好評を得たとするのか、あるいは臨床例や治験データをどうやって確認することができるのかというファンダメンタルな補完情報を法制度によって義務付けるとか医療情報オンブズマンによって氾濫する情報を定期的に精査できるよう専門機関に委託するということも考えられる。しかし、現実問題として新たなる法規制や膨大な量の情報を定期的に精査するということには限界があるかもしれない。

【結論】信頼できる医療情報に患者や一般市民がどうしたら簡単にアクセスできるかという方策の具体的な検討や、引用文献を容易に解析できる文献存在確認サービスの実施等が急務の課題となる。